

# 笠置町橋梁長寿命化修繕計画の概要

## 背景・目的

本町は令和3年度現在で歩道橋などを含めて30橋を管理しております。



潜没橋(供用年数：59年)



布目橋(供用年数：34年)

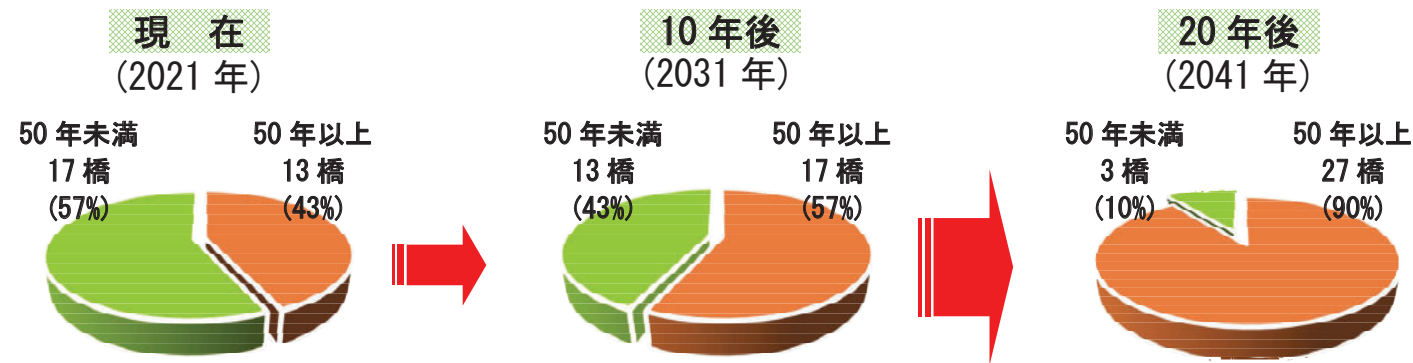


白鷺橋(供用年数：27年)

現在、高度経済成長期に架けられた橋が急速に老朽化しており、補修する費用の増加や時期が集中することが懸念されています。本町では、30橋のうち約半数の橋(全体の43%)が既に架けられて50年を迎えており、20年後には全体の90%が50年を迎える高齢化橋梁となってしまいます。

高齢化橋梁の増加により、安心・安全な町民生活を支える道路ネットワークが悪化するだけでなく、多大な維持補修費用が必要となってしまいます。

そこで、町が管理している橋梁に対する維持管理手法をこれまでの「悪くなってから対策を行う」対症療法型から、「傷みが大きくなる前から計画的に対策を行う」といった予防保全型に移行し、安心・安全な道路ネットワークを維持するとともに、維持管理にかかる費用の縮減を図るものとしています。2012年度長寿命化修繕計画後、潜没橋を含む13橋が実際に修繕しています。前回計画と比較し、乖離を鑑みたくえで維持管理費用の最適化を図るものとしてします。



## 橋の維持管理方針

次のような方法で橋の維持管理を行います。

- ・5年に1度程度、定期点検の実施
- ・日常の道路施設パトロールにおける点検

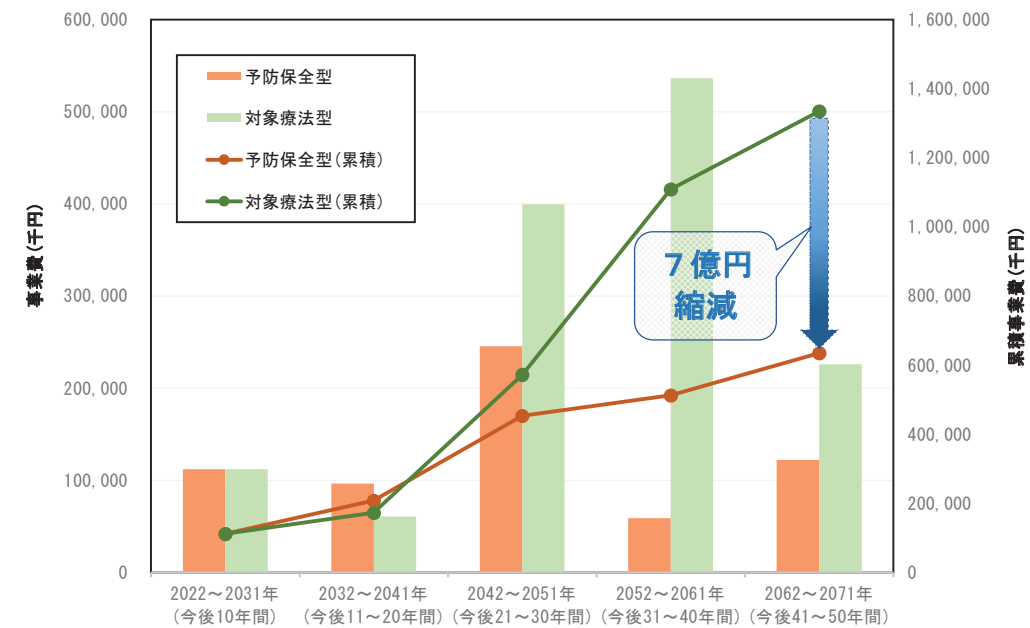
これらの点検を通して、橋の傷みを早期に発見し、その傷みが大きくなる前に対応します。また本計画は、本町の管理橋梁全てを対象として修繕計画を策定しています。

## 修繕計画の内容と効果

策定した計画に基づき令和4年度より傷んだ箇所の補修などを順次実施します。



予防保全型と対症療法型の事業費概算比較



本計画で計画的に橋の補修をすることで、橋の寿命を50年以上延命できるといわれています。また今回策定した計画によって橋の維持管理費用が13.3億円から6.3億円程度に節約できることになり、約7.0億円のコスト縮減を図ることができると期待されます。

今後、本計画に基づいて橋の点検、維持、対策を繰り返すことにより、橋の管理をすすめ、経済的で安心・安全な道路ネットワークを維持するように努めます。